

建 設

1.	かごしま水族館	259
2.	公有水面埋立事業	260
3.	公園	261
4.	緑化事業	263
5.	動物公園	265
6.	都市計画概況	266
7.	港湾	268
8.	都市景観	270
9.	住居表示	271
10.	開発許可事務	271
11.	市街地再開発	272
12.	本市施行の土地区画整理事業	275
13.	清算	283
14.	連続立体交差事業	283
15.	建築確認事務	284
16.	住宅	285
17.	建築物の維持保全	287
18.	建築物の環境対策	288
19.	土木	288
20.	高速道路	295
21.	地籍調査	295



▶市電軌道敷緑化完成記念式典

建設

公園及び都市の緑化については、市民に親しまれる公園緑地の充実を図るとともに、市電軌道敷や街路の緑化、市民との協働による花いっぱい運動等により、花と緑が彩るまちづくりに取り組んでいる。

都市計画については、集約型都市構造の実現に向け、きめ細かな土地利用の推進を図るほか、市街地再開発の促進や、土地区画整理事業及び谷山地区連続立体交差事業等の推進により、機能性の高い都市空間の形成に取り組んでいる。

住宅及び建築については、少子高齢化の進行等に伴う市民の多様なニーズに対応した住環境の形成を図るほか、ストックマネジメント事業等による施設の長寿命化や、公共建築物における省エネルギー化等を通じた環境対策に取り組んでいる。

道路、河川等については、幹線道路網の整備や交通需要に即した道路等の整備、橋りょう等の長寿命化のほか、河川改修の促進や公共下水道（雨水路）の整備等に取り組んでいる。

1 かごしま水族館（愛称「いおワールド」）

「黒潮浪漫海道」をメインテーマに、黒潮のたどる南西諸島の海から鹿児島のおまの魚たちを、多彩な水槽で紹介することによって、水族に関する知識を広め、自然環境への意識の高揚を図っている。また、市民の健全な余暇の活用にも資するとともに、本市の観光の振興にも資する施設である。

平成23年9月には、入館者数が1,000万人を突破した。

所在地 本港新町3番地1

開館 平成9年5月30日

開館時間 午前9時30分～午後6時（入館は午後5時まで）

休館日 12月の第1月曜日から連続する4日間

入館料 大人 1,500円（1,200円）

小人（小・中学生） 750円（600円）

幼児（4歳以上） 350円（280円）（ ）内は20人以上の団体料金

年間パスポート

大人 3,000円（2,700円）

小人（小・中学生） 1,500円（1,350円）

幼児（4歳以上） 700円（630円）（ ）内はファミリー購入料金

平川動物公園・かごしま水族館共通チケット

大人 1,600円

小人（小・中学生） 770円

構造 鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）地上5階一部地下2階建

敷地面積 14,043.96㎡

延床面積 13,162.83㎡

展示水族 約500種30,000点

施設概要 本館

- ・ 1 階 エントランスホール、ピラルクー水槽、マングローブの生き物たち、ワクワクはっけんひろば、タッチプール体験コーナー、アミューズメントショップ、管理事務室等
- ・ 2 階 黒潮大水槽、水中トンネル、南西諸島の海、アクアラボ、レストラン等
- ・ 3 階 いおっこひろば、海を渡ってきたオオウナギ、特別展示室等
- ・ 4 階 かごしまの海（サツマハオリムシ、錦江湾の魚、タカアシガニ水槽等）
- ・ 中5階 展望ホール（タイヘイヨウアカボウモドキ骨格標本展示コーナー）

イルカ館

- ・ 地下2階 イルカプール（水中観察コーナー）
- ・ 地下1階 イルカプール及び観覧スタンド
- ・ 1 階 イルカプール観覧スタンド

屋外（無料ゾーン）

- ・ イルカ水路

入館者状況（平成24年度）652,382人

内 訳 大人 367,832人 小人 100,764人

幼児 51,515人 無料 132,271人

2 公有水面埋立事業

(1) 与次郎ヶ浜

① 概要

この事業は、昭和41～47年度に中部地区宅地造成事業の関連事業として、鹿児島開発事業団に工事を委託し、埋立てに要する土砂を中部地区から大規模な水搬送工法によって施工したものである。

② 事業費等

事業費総額 114億3千万円

埋立面積 1,089,096㎡（329,451坪）

工期 昭和41年8月～47年8月（附帯工事を昭和49年3月まで継続）

(2) 祇園之洲

① 概要

この事業は、開発事業団が施工した与次郎ヶ浜埋立工事（昭和41年8月～47年8月）で採用した水搬送工法によって、埋立地の北方約2.5km に位置する丘陵地（せ

ばる団地）の土砂を稲荷川の水を利用してパイプ搬送により埋立てたものである。

② 事業費等

目 的……上町地区の振興を図るため
 埋 立 面 積……84,234㎡（約25,000坪）
 土 量……70万㎡
 護 岸 延 長……1,432m
 工 期……昭和48年3月～52年3月
 建 設 業 者……13業者
 分 譲……昭和52年度開始
 事業費総額……22億4千万円

3 公 園

(1) 公園緑地整備と現況

本市の都市公園は623か所、総面積450.44haで、市民一人当たりには換算すると7.43㎡となっている。

公園緑地は、市民に潤いと安らぎを与えるとともに、スポーツ・レクリエーション活動、健康づくりや地域コミュニティ等の場、さらには災害避難地としての機能を担うなど、重要な役割を果たすことから、全市的に調和のとれた配置と拡充に努めている。また、多様化する公園緑地へのニーズに対応するため、既設公園の再整備を行うとともに、市民との協働による公園づくりに取り組むこととしている。

主なものとして、これまでにかごしま健康の森公園や鹿児島ふれあいスポーツランドをはじめ、郊外にあってハイキング等を楽しめる自然志向型公園の錦江湾公園、豊かな緑を生かし、「ふるさと考古歴史館」を内包した慈眼寺公園、市街地中心部では「緑と水と光」をテーマに明るく開放的なイメージを基調とした中央公園、「市民や観光客のふれあい交流の場」としての共研公園、都市近郊の豊かな緑や自然的・歴史的特性を生かした多賀山公園、さらに、小野・伊敷地区には硬式野球のできる広場を備えた小野公園、吉野地区には寺山ふれあい公園、桜島地区には古里公園を整備している。

(2) かごしま健康の森公園

市制100周年の記念事業の一つで、市民の健康づくりの拠点として犬追町の丘陵地に設置され、スポーツやレクリエーション、遠足・園外保育等、また、地域の交流の場として、開設以来多くの市民の方々に広く利用されている。

開設年月日 平成4年4月1日

面 積 336,600㎡

利用時間 午前8時30分～午後9時

（ただし、プールについては、午前8時30分～午後8時まで）

休業日 12月30日～1月2日

(ただし、プールは火曜日(休日のときは翌平日)も休み)

駐 車 場 約1,200台
 主 要 施 設 記念広場(噴水・カナル・カスケード)
 多目的広場・ファミリー広場(芝生広場, バターゴルフコース)
 わんぱく広場
 桜広場(展望台)
 運動広場(サッカー, ラグビー)
 テニスコート(砂入人工芝7面)
 プール(温水プール, 温泉プール, ウォータースライダー)
 体育館(バドミントン, 卓球, バレーボール, バスケットボール)
 相撲場(1面)
 自然観察園, こもれびの散歩道, 四季の花園
 ジョギングコース

(3) 鹿児島ふれあいスポーツランド

スポーツやレクリエーション活動を通じて、気軽に心身のリフレッシュや健康づくり、交流活動などを楽しめる総合公園として、多くの市民の方々に広く利用されている。

開設年月日 平成16年10月16日(ふれあいスポーツゾーン)

位 置 中山町中山インターチェンジ東側の丘陵地

開設面積 399,600㎡

利用時間 午前8時30分～午後9時

(ただし、プールについては、午前8時30分～午後8時)

休業日 12月30日～1月2日

(ただし、プール、トレーニング室は水曜日(休日のときは翌平日)も休み)

駐 車 場 約900台

主 要 施 設

○ ふれあいスポーツゾーン

屋内プール(25mプール, ウォータースライダー, 歩行浴, 温泉保養コーナーなど), 屋内運動場(ゲートボール, テニス, フットサルなどのできる屋内運動場), トレーニング室(各種トレーニングマシンを備えたトレーニングスタジオ), EXスタジオ(ダンスやエアロビクスなどができるフロリングスタジオ), 運動広場(芝生広場, クレイ広場), ふれあい広場・花の広場(交流や休息ができる芝生広場, 四季の花木などを楽しめる広場), 林間スポーツ広場(グラウンド・ゴルフが楽しめる広場), ピクニックの丘(ピクニックや散策, 休息が楽しめる広場), 溪流の散歩道・親水広場

(自然の魅力を楽しむ散歩道、水に触れ合える池のある広場)

○ 専用球技ゾーン

多目的球技場(県立スタジアム)基本計画:7年度策定

県立球技場(仮称)基本構想:16年度発表

(現在の状況)

県は、平成25年度の供用開始を目的に、現在、専用球技場の整備を行っている。

(4) 都市公園の現況

(平成25.4.1現在)

公園種別	開設公園						
	都市計画公園		都市計画外公園		計		
	箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)	箇所	面積(ha)	
街区公園	121	29.39	434	62.35	555	91.74	
近隣公園	14	24.66	21	35.05	35	59.71	
地区公園	4	19.61	3	14.13	7	33.74	
総合公園	4	119.72			4	119.72	
運動公園	1	43.15			1	43.15	
特殊公園	風致公園	2	37.10	1	1.00	3	38.10
	動物公園	1	29.34			1	29.34
	墓園	2	10.90			2	10.90
歴史公園			2	1.84	2	1.84	
緑道	1	14.80	2	0.90	3	15.70	
都市緑地	1	0.80	7	4.26	8	5.06	
緩衝緑地			2	1.44	2	1.44	
合計	151	329.47	472	120.97	623	450.44	
1人当たり面積	4,504,400㎡÷605,883人=7.43㎡						

4 緑化事業

(1) 都市緑化

緑にまつまれた潤い豊かな空間を創出し、四季の表情豊かな花と緑の街づくりを推進する。

① 公園の緑化

緑の拠点として緑化を進めるとともに、多様な公園の整備にあわせ、それぞれの特徴を生かした緑の質の向上を図る。

② 街路の緑化

幹線道路等を中心に、地域の特徴を生かした個性ある植栽を行うとともに、樹木の自然な生長を生かしながら、緑豊かで花に満ちたネットワークの形成とその充実を図る。

街路樹の状況

（平成25. 4. 1 現在）

管 理 者 別	市 道
本 数	829,025

街路樹の樹種別本数（高木）

（平成25. 4. 1 現在）

樹 種	クスノキ	クロガネチモ	サクラ	ヤマモモ	タイワンフ	その他	計
本 数	5,789	2,995	1,849	808	697	9,048	21,186
割 合（％）	27.3	14.2	8.7	3.8	3.3	42.7	100

（低木）

樹 種	ヒラドツツジ	カンツバキ	サツキ	ヒノデキリシマ	シャリンバイ	その他	計
本 数	379,314	101,173	78,793	57,725	47,875	142,959	807,839
割 合（％）	47.0	12.5	9.7	7.2	5.9	17.7	100

③ 市電軌道敷の緑化

ヒートアイランド現象の緩和や都市景観の向上を図るため、芝生による市電軌道敷の緑化整備を行い、潤いと安らぎのある都市空間を創出する。

平成24年度に、道路との併用軌道区間8.9kmの緑化（芝生面積約35,000㎡）が完成した。

(2) 花と緑のまちづくり

① 市設花壇等の維持管理

四季を通じて花に囲まれた街づくりを推進するため、市設花壇の維持管理を行う。

② 花いっぱい運動の推進

生活環境の整備、美化のため、町内会、通り会、その他の市民団体が行う活動に対し、花苗の配布や技術指導等を行う。

③ 公共施設の屋上・壁面緑化

整備実績（直近5か年）

平成20年度 市立図書館（屋上）、みなと大通り別館（壁面）

平成21年度 西部保健センター（屋上）

平成22年度 かごしま近代文学館・かごしまメルヘン館（屋上）

平成23年度 谷山支所（壁面）

平成24年度 みなと大通り別館（壁面）

(3) 緑化の普及啓発

① 花のまちづくりコンクールの実施（隔年開催）

四季の草花による“緑花”を奨励し、また家庭、事業所等における“緑花”の普及を図るため花壇のコンクールを実施する。

② 街路樹愛護

「自分たちの緑は自分たちの手で」をモットーに自主的な歩道緑地の管理の普及を図るとともに、住みよい快適環境づくりをめざす。

歩道緑地管理団体（平成25. 4. 1 現在216団体、奨励金1 管理団体につき12,000円）

③ グリーンバンク

撤去等が予定されている樹木等の寄付を受け、これを公園等に植栽し生長させ、市民生活環境の向上と緑化の推進を図る。

④ 花と緑のふれあい

ア 花と緑の相談員の設置 イ ふれあい園芸教室の開催（年2回）

ウ 錦江湾公園はなまつりの開催

⑤ 民間施設の屋上・壁面緑化の促進

鹿児島市民間建築物屋上・壁面緑化助成事業（市単独事業 平成18年度から実施）

目的 鹿児島市におけるヒートアイランド現象を緩和するとともに、潤いのある空間を創出し、緑の街並みづくりを促進する。

内容 市街化区域内の建築物所有者が行う屋上や壁面の緑化に対し助成する。

実績 平成24年度 屋上緑化 6件

5 動物公園

鳴池動物園開園 大正5年9月23日

市移管 昭和3年7月1日

鳴池動物園閉園 昭和47年2月29日

平川動物公園開園 昭和47年10月14日

(1) 沿革・運営

大正5年民間企業が鳴池に遊園地を設置、その後、昭和3年に市が買収し、交通事業の誘致施設として、敷地拡張、動物購入や娯楽施設の充実に努めた。

その後、動物園経営が交通事業の負担となってきたため、昭和36年度から運動場とともに市教育委員会に移管し、子供の教育に役立つ魅力ある動物園を目標に、施設の整備充実を図った。

昭和43年には、所管を都市計画部に移し、位置、面積等について都市計画の一環として検討していくこととなった。昭和44年度に300万円の動物園移転調査費を計上して調査を行い、昭和45年度に平川町の五位野地区に位置決定し、昭和46年4月5日着工、昭和47年10月14日に平川動物公園（平川町5669番地1）として開園した。

(2) 平川動物公園

動物公園は、面積約314,000㎡で、前面に桜島と錦江湾を望み、山林や谷、川のある起伏に富んだ地形で、自然に囲まれた公園としてそれらをできるだけ原形のまま残して建設されていることから、現在でも園内では五位野川のせせらぎなど、美しい自然が色濃く残っている。

昭和59年にオーストラリアのクイーンズランド州から誘致したコアアラも平成23年度には7世となる56頭目の赤ちゃんが生まれ、現在、8頭を飼育している。（平成25.3.31現在）

また、平成23年5月に中国から来園したホワイトタイガーには、同年11月と、平成25年5月に赤ちゃんが誕生した。

平成21年度から、新しい展示方法の導入や利用者の利便性の向上を図り、「南国鹿児島らしい」「人にやさしい」「動物にやさしい」魅力ある動物公園にするため、平成27年度を目途にリニューアルを進めており、平成23年11月に「インドの森ゾーン」、平成24年4月に「野生のイヌ・ネコゾーン（ライオン・クロヒョウほか）」など、平成25年6月に「不思議な動物ゾーン」、同年7月に「かごしまの動物ゾーン」が完成した。

平成25年5月には、入園者数が2,300万人を超えた。

① 施設

開園時間 午前9時～午後5時

休園日 12月29日～1月1日

飼育動物 131種 952点（平成25.3.31現在）

（哺乳類78種540点、鳥類41種387点、は虫類12種25点）

動物舎 50棟 12,748.73㎡

② 平成24年度入園者状況

大人 319,843人、小人 86,354人、無料 193,123人、計 599,320人

③ 入園料

一般（高校生以上） 500円（400円）

小学生・中学生 100円（80円）（ ）内は20名以上の団体料金

④ 年間パスポート

一般（高校生以上） 1,000円

小学生・中学生 200円

⑤ 平川動物公園・かごしま水族館共通チケット

大人 1,600円

小人（小学生・中学生） 770円

6 都市計画概況

都市計画の基本は、都市の健全な発展と秩序ある整備を図り、公共の福祉に寄与することである。

本市は平成16年11月の合併に伴い、5つの都市計画区域が存在している。

土地利用の適切な誘導と均衡ある発展を図るために、「市街化区域」及び「市街化調整区域」の区域区分並びに用途地域の指定をはじめ、道路・公園・緑地・下水道等の都市施設を都市計画に定め、整備を逐次進めている。

(1) 土地利用計画（平成25. 4. 1 現在）

① 都市計画区域

	鹿児島	吉田	喜入	松元	郡山	合計
都市計画区域	29,017ha	650ha	2,905ha	3,171ha	2,740ha	38,483ha

② 市街化区域及び市街化調整区域

	鹿児島	吉田	喜入	松元	郡山	合計	決定告示	備考
市街化区域	8,442ha (21.9%)	-	-	-	-	8,442ha (21.9%)	平成22.12.28 (変更決定)	(当初決定) (昭46.2.12)
市街化調整区域	20,575ha (53.5%)	-	-	-	-	20,575ha (53.5%)		

③ 用途地域

用途地域	鹿児島	吉田	喜入	松元	郡山	合計	割合 (%)	備考
	面積(ha)	面積(ha)	面積(ha)	面積(ha)	面積(ha)	面積(ha)		
第一種低層住居専用地域	約3,997	約44	-	約29	約10	約4,080	46.0	・鹿児島 (平成22.12.28 当初決定 昭和48.6.18)
第二種低層住居専用地域	約141	-	-	-	-	約141	1.6	
第一種中高層住居専用地域	約211	約1.5	-	約139	約59	約410.5	4.6	
第二種中高層住居専用地域	約831	約9.5	-	約8.7	-	約849.2	9.6	・吉田 平成21.8.11
第一種住居地域	約838	-	-	約54	約18	約910	10.3	
第二種住居地域	約101	-	-	-	-	約101	1.1	・松元 (平成16.4.1 当初決定 平成9.1.31)
準住居地域	約193	-	-	約15	約7.6	約215.6	2.4	
近隣商業地域	約291	-	-	約11	約3.2	約305.2	3.4	・郡山 (平成16.9.1 当初決定 平成4.9.1)
商業地域	約503	-	-	-	-	約503	5.7	
準工業地域	約517	-	-	約14	約5.3	約536.3	6.0	
工業地域	約237	-	-	-	-	約237	2.7	
工業専用地域	約582	-	-	-	-	約582	6.6	
合計	約8,442	約55	-	約270	約103	約8,870	100.0	

備考) 防火地域123ha、準防火地域761ha、風致地区1,013ha、臨港地区255.8ha、特別用途地区536.3ha
駐車場整備地区580ha、流通業務地区61ha、高度地区25ha、高度利用地区2.5ha、地区計画(20地区、約436.05ha)

(2) 都市計画道路整備状況（平成25. 3. 31現在）

区分		道路種別	国道	県道			市道	合計	進捗率 (%)
				主要地方道	一般地方道	小計			
鹿児島 都市計画区域	計画決定	延長(km)	34.670	27.880	23.250	51.130	147.950	233.750	
		面積(ha)	84.831	64.915	56.338	121.253	251.280	457.364	
		延長(km)	26.187	23.810	18.880	42.690	130.696	199.573	85%
		面積(ha)	65.299	56.396	49.346	105.742	225.083	396.124	87%
	改良済	延長(km)	29.770	26.270	19.435	45.705	140.705	216.180	
		面積(ha)	70.029	61.070	50.000	111.070	240.759	421.858	
		延長(km)	23.116	23.250	15.960	39.210	129.206	191.532	89%
		面積(ha)	55.613	55.176	44.440	99.616	222.737	377.966	90%
郡山 都市計画区域	計画決定	延長(km)	1.520	3.360	0.000	3.360	1.490	6.370	
		面積(ha)	3.040	5.152	0.000	5.152	1.937	10.129	
	改良済	延長(km)	0.670	1.616	0.000	1.616	0.800	3.086	48%
		面積(ha)	1.340	2.696	0.000	2.696	1.040	5.076	50%

7 港 湾

(1) 鹿児島港の現状

港湾管理者 鹿児島県

明治40年10月 「重要港湾」(旧法)に指定

大正8年7月11日 「開港」勅令333号。長崎税関鹿児島支署設置

大正11年4月8日 「甲種港湾」に指定

昭和26年1月19日 「重要港湾」(現法)に指定 政令第4号

鹿児島港は鹿児島市の海の玄関口であり、穀物及び飼料を中心とする貿易や県内外の物流の拠点である。

港は南北20kmにわたり、桜島フェリー、種子・屋久航路、沖縄航路等の発着場となっている「本港区」、奄美・沖縄航路等の発着場となっている「新港区」、大隅方面へのフェリーの発着場となっている「鴨池港区」、LPG・金属くず等を取り扱う「中央港区」、臨海工業用地から発生する貨物や背後地域の船舶輸送需要に対応する「谷山一区」・「谷山二区」、ヨット・プレジャーボート・漁船等の基地として利用されている「浜平川港区」からなっている。

鹿児島港は、これまで、重要港湾として国及び港湾管理者である県により港湾機能の高度化、離島航路の集約化、背後地域の振興を図るための都市再開発用地の確保等を主な目的として整備が行われてきた。

しかしながら、国際化・都市化・情報化の進展等、社会経済情勢の変化に伴い、ウォーターフロントの魅力を生かした街づくり、海洋性レクリエーション基地の整備、人・物・情報の行き交う交流拠点の形成などが、新たな課題となってきた。そこで、これらの課題に対応するため、平成5年6月に目標年次を概ね平成17年として港湾計画が改訂された。

現在、国際交流の拠点等として平成11年12月に着工された中央港区の「マリンポートかごしま」や、鹿児島港の湾岸を南北に走る臨港道路等の整備が進められている。

「マリンポートかごしま」については、大型観光船が接岸できる岸壁と緑地空間の整備が進められ、このうち1期1工区については、平成19年9月に供用開始された。また、1期2工区については、平成24年3月に埋立てに関する工事が竣功した。なお、海洋性レクリエーション需要の増大に対応したマリナー等の整備が計画されている。

(2) ウォーターフロントの開発

本港区のウォーターフロント開発については、昭和63年度から平成元年度にかけて「鹿児島港ポータルネッサンス21計画調査」を、また、平成2年度には、本港区の景観の高質化を図るための方策を検討するため「本港区景観形成調査」を実施した。これらの調査結果等を踏まえて、県などにより順次施設整備が進められ、北ふ頭旅客ターミナル、貨物上屋、ボードウォークなどは平成5年12月に、桜島フェリーターミ

ナルは平成10年4月に、南ふ頭は平成14年9月に、高速船ターミナルは平成19年4月にそれぞれ供用が開始された。

水族館については、市が事業主体となって、平成3年度に基本構想を策定し、平成4年度に基本設計、平成5年度に実施設計、平成6年度から建設に着手、平成9年5月にオープンした。

一方、商業施設等については、平成3年度に県・市・商工会議所で構成する「鹿児島港ポータルネッサンス21事業推進協議会」を設立して、各種調査等を行い、平成6年度末に、その後の社会経済情勢の変化に柔軟に対応した開発のマスタープランとして「鹿児島港本港区ウォーターフロント開発基本計画」を策定した。この基本計画では、「躍動と南のロマンあふれるみなと鹿児島島の創造」を開発コンセプトとして、鹿児島の自然や歴史を生かしながら、生活者や観光客が憩い、楽しめる空間づくりを目指している。この基本計画のもと、本港区A街区において事業用定期借地方式による暫定開発により商業施設を導入することとし、平成17年4月に「ドルフィンポート」がオープンした。また、平成12年3月にはNHKが進出を決定し、平成18年10月に業務を開始した。

(3) 鹿児島港船舶旅客状況 (資料：港湾調査 年報 単位：人)

	19年	20年	21年	22年	23年
船舶乗降人員	6,812,952	6,764,397	6,487,014	6,282,079	6,253,783

(4) 鹿児島港輸移出入状況 (資料：港湾調査 年報 単位：トン)

		19年		20年		21年		22年		23年	
		数量	%	数量	%	数量	%	数量	%	数量	%
内 国 貿 易	移出	19,661,891	47.1	19,478,991	47.5	19,156,336	48.0	18,273,515	47.1	17,893,985	46.7
	移入	22,063,401	52.9	21,546,019	52.5	20,783,410	52.0	20,564,919	52.9	20,455,814	53.3
	計	41,725,292	100.0	41,025,010	100.0	39,939,746	100.0	38,838,434	100.0	38,349,799	100.0
外 国 貿 易	輸出	1,718	0.1	4,221	0.3	21,958	1.5	7,798	0.6	0	0.0
	輸入	1,528,533	99.9	1,429,212	99.7	1,486,058	98.5	1,373,825	99.4	1,447,939	100.0
	計	1,530,251	100.0	1,433,433	100.0	1,508,016	100.0	1,381,623	100.0	1,447,939	100.0

(5) 鹿児島港入港船舶トン数階級別表(平成23年実績) (資料：港湾調査 年報)

区 分	総トン 数	30,000 以上	10,000 } 30,000	6,000 } 10,000	3,000 } 6,000	1,000 } 3,000	500 } 1,000	5 } 500	計	前年 対比 (%)	平成 22年 実績
外 航	隻数	45	38	27	6	9	20	2	147	63.1	233
	トン数	1,962,759	784,708	240,153	24,865	14,694	16,612	544	3,044,335	64.7	4,708,495
内 航	隻数	0	65	148	1,051	26,130	19,164	9,431	55,989	95.6	58,537
	トン数	0	907,808	1,091,326	4,514,573	36,094,928	14,337,717	1,606,784	58,553,136	97.1	60,327,000
計	隻数	45	103	175	1,057	26,139	19,184	9,433	56,136	95.5	58,770
	トン数	1,962,759	1,692,516	1,331,479	4,539,438	36,109,622	14,354,329	1,607,328	61,597,471	94.7	65,035,495

8 都市景観

(1) 概要

良好な景観は、国民共通の財産であり、将来にわたり国民がその恵沢を享受できるように守り、創り、育てていかなければならない。

本市は、波静かな錦江湾や雄大な桜島などの自然が広がる、世界に誇れる美しい景観に恵まれている。また、それぞれの地域には、鹿児島島の風土・文化に生まれ、市民が愛着と誇りを持っている身近な景観もある。

このような良好な景観が地域社会の共通の財産であることを再認識し、市民、事業者、行政が一体となって景観に配慮したまちづくりを進めていくために、景観法に基づく景観計画及び景観条例による施策を実施している。

(2) 景観形成の目標

- ・個性ある骨格景観の形成により、「鹿児島らしさ」を創りあげる。
- ・地域のまちづくり計画と連携し、地域の魅力を引き出す景観形成を推進する。
- ・地域の景観資源を活用し、景観の魅力の向上を図る。
- ・市民、事業者、行政が協働して、みんなが誇れる景観形成を進める。

(3) 景観計画の概要

告示 平成19年12月25日
 施行 平成20年6月1日
 内容 城山展望台から錦江湾・桜島への眺望確保、建築物等の色彩基準の導入、景観形成重点地区指定の仕組みづくり

(4) 景観条例の概要

公布 平成19年12月25日
 施行 平成20年6月1日
 内容 視点場の導入
 景観づくり団体の要件
 景観アドバイザーの導入
 景観審議会の設置

(5) 実績

景観に関する届出等件数

区分 \ 年度	20	21	22	23	24
景観法16条1項に基づく届出	191	190	173	174	230
景観法16条2項に基づく届出	10	23	14	11	9
景観法16条5項に基づく通知	109	98	98	92	62
合計	310	311	285	277	301

(6) 屋外広告物許可申請件数

		平成24年度
屋外広告物許可申請（新規）		283件
〃（更新）		247件
〃（変更）		165件
〃（はり紙）		717件
合 計		1,412件

(7) 屋外広告物施設設置状況 （平成25. 4. 1 現在）

公 共 掲 示 板	116基
は り 紙 専 用 広 告 塔	26基

9 住居表示

本市では、昭和37年に制定された「住居表示に関する法律」に基づき、昭和38年から住居表示を実施している。

計画面積は、当初の計画34.4km²を昭和48年3月に38.885km²、昭和60年11月に69.301km²、平成3年2月に75.076km²、平成5年11月に84.004km²、平成17年10月に86.560km²と拡大しており、平成24年度までの進捗率は85.0%である。

平成25年度は、谷山第二地区（第1期）及び和田地区の実施を予定しており、今後も年次計画に基づき実施する。

年 度	面積 (km ²)	人口 (人)	世帯数	進捗率 (面積%)
24 年 度	73.539	478,800	198,210	85.0
25 年 度	0.759	4,000	1,750	85.8
26 年 度	12.262			

10 開発許可事務

(1) 概 要

本市域内で主として建築物の建築等の用に供する目的で行う土地の区画形質の変更、すなわち開発行為を行う場合や、市街化調整区域内で建築物を建築する場合の都市計画法に基づく許可を行っている。

また、平成14年3月18日からは、市街化調整区域内において優良田園住宅建設促進制度を導入し、運用を開始したほか、平成16年11月1日には、「鹿児島市市街化調整区域における住宅建築等に関する条例」を施行し、許可を行っている。

平成16年7月22日には、宅地造成工事規制区域の見直しを行い、宅地造成等規制法に基づく許可の範囲を拡大した。

また、平成19年10月1日には、「鹿児島市宅地開発に関する条例」を施行し、宅地開発許可制度の適正な運用と透明性の確保を図るとともに、旧5町域に宅地造成工事規制区域を拡大し、同区域内での宅地造成等規制法に基づく許可を行っている。

平成18年5月31日の都市計画法の改正（平成19年11月30日施行）により、市街化調

整区域内での大規模開発ができなくなり、それまで開発許可や建築許可が不要であった社会福祉施設、医療施設、学校、庁舎等の公共公益施設についても許可が必要となった。

(2) 実績

開発許可等件数 ※変更許可は含まない

区分	年度	20	21	22	23	24
都市計画法第29条開発許可		56	56	53	43	64
都市計画法第43条建築許可		207	177	202	214	195
宅地造成等規制法第8条許可		20	19	19	26	16

11 市街地再開発

本市の市街地再開発は、昭和37年に柿本寺、御着屋、天神馬場、納屋の4地区が、昭和43年に中町地区が「防災建築街区造成法」（昭和36年6月施行）に基づく防災建築街区として指定され、中町、天神馬場を除く各街区に防災建築物（延べ建築面積14,860㎡、総事業費623,983千円）が建築されたことに始まる。

その後、同法に代わり昭和44年6月に「都市再開発法」が施行され、以後この法に基づいて事業が行われることになった。

このような中、昭和46年度に納屋中町地区において現況調査を実施、翌年度には市街地再開発事業の準備組合が結成されたが、経済状況等の変化を理由に事業化の中止に至った。

その後、都心一点集中型の都市構造を改善し、市全体として調和のとれたまちづくりを進めるため、市街地再開発事業による都市機能の適正な配置と高次化を図り、ゆとりと潤いのある都市空間の創出、個性や文化性を備えた安全性の高いまちの形成を目指している。

（鹿児島中央駅地区）

鹿児島中央駅（旧西鹿児島駅）地区の活性化を図るとともに、新たなにぎわいとゆとりのある都市空間を創造するため、昭和60年3月「西鹿児島駅地区総合整備構想」を策定した。西鹿児島駅東口地区（12.3ha）においては、昭和58年度に市街地再開発事業基本計画を策定し、当地区内の中央町10番街区では、昭和61年1月に準備組合が設立され、昭和63年9月には高度利用地区、同年10月には第一種市街地再開発事業の都市計画決定がなされ、平成元年6月には、市街地再開発組合の設立の認可を受けた。その後、平成9年11月に施設建築物工事に着手、平成11年5月に工事が完了し、同年6月に店舗等の施設がオープンした。（総事業費約11,777百万円）

また、10番街区に隣接する中央町6番街区の一部においては、駐車場を主体とした市街地再開発事業の気運が高まり、昭和63年12月に関係権利者による再開発協議会が設立され、平成9年12月に高度利用地区及び第一種市街地再開発事業の都市計画決定

がなされ、平成10年3月には市街地再開発事業の個人施行の認可を受けた。同年7月に施設建築物工事に着手、平成11年5月に工事が完了し、同年6月に供用を開始した。（総事業費約3,023百万円）

一番街を中心とする南部地区においても、平成2年4月、準備組合が設立されたが、経済状況等の大きな変化から事業の進捗が図られず、平成7年7月、準備組合は事業計画の抜本的見直しにより解散することとなった。平成8年10月には新たに「西駅南部地区リニューアル協議会」が設立され、今後のまちづくりの検討を行っている。なかでも中央町22番街区・23番街区においては、平成17年4月にそれぞれの街区で準備組合が設立され、平成18年1月には高度利用地区及び第一種市街地再開発事業の都市計画決定がなされた。その後、23番街区では同年10月に市街地再開発組合が設立され、平成19年9月に権利変換計画の認可を受け、平成20年7月に施設建築物工事に着手、平成22年8月に工事が完了し、同年9月にオープンした。また、22番街区では、平成19年6月に施行区域を街区全体とするための都市計画変更が行われ、平成20年1月に市街地再開発組合が設立され、同年12月に権利変換計画の認可を受けた。平成21年4月に施設建築物工事に着手、平成22年2月に工事が完了し、同年3月にオープンした。（総事業費約4,830百万円）

さらに、中央町19番街区・20番街区においても、再開発の気運が高まり、平成24年7月に準備組合が設立され、事業化に向けた具体的な検討が進められている。

また、鹿児島中央駅周辺においては、東口地区と西口地区が連携し、まちなかのにぎわいと回遊性のさらなる向上を図るため、平成23・24年度に、地元商業者等によるワークショップを開催し、まちづくりの指針となる「鹿児島中央駅周辺一体的まちづくりガイドライン」を策定した。

平成25年度は、ガイドラインに基づく具体的取組とその実行組織の構築、エリアマネジメント力の向上のため、その担い手に対し活動を支援するとともに、引き続き19番街区、20番街区の準備組合の活動を支援していくこととしている。（平成25年度予算7,147千円）

（天文館地区）

厚生市場を中心として、小売市場近代化事業の取組がなされていた西千石町13番街区では、平成8年度に市による推進計画調査を行い、平成9年12月に準備組合が設立された。その後、平成12年3月に高度利用地区及び第一種市街地再開発事業の都市計画決定がなされ、平成13年1月には市街地再開発組合の設立の認可を受け、平成14年4月に施設建築物工事に着手、平成15年8月に工事が完了し、同年9月に店舗、住宅等の施設がオープンした。（総事業費約4,338百万円）

（鹿児島本港背後地区、鹿児島駅周辺地区）

鹿児島本港背後地区では、本港区再開発と一体となって、海や港を生かしたまちづくりを進めるため、昭和61年5月「鹿児島本港背後地区総合整備構想」を策定した。

昭和62年には、当地区活性化のさきがけの事業として、農協連跡地の再開発を民間活力を導入して実施するための提案協議を行い、昭和63年12月に鹿児島アーバンポート21の建設工事に着手した。平成2年7月に住宅館が完成し、入居開始、同年10月には市場館が、平成5年4月にはグルメ・スポーツ・ホテル館がそれぞれオープンした。

さらに、再開発の気運が高まった小川町21番街区においては、平成元年8月に準備組合が設立された。平成4年4月に高度利用地区及び第一種市街地再開発事業の都市計画決定がなされ、同年10月には市街地再開発組合の設立の認可を受けた。その後、平成6年8月に施設建築物工事に着手、平成8年1月に工事が完了し、同年2月に店舗、住宅等の施設がオープンした。（総事業費約3,726百万円）

鹿児島駅周辺地区では、陸の玄関としての旅客駅を中心機能が鹿児島中央駅に移り、また市街地も南へ進展するなど、地域活力の低下が見られる。そこで、駅周辺に広がる旧国鉄用地を活用するなかで、ゆとりと潤いのある都市環境を整備するとともに、隣接する鹿児島港本港区とも関連付けた交通結節機能を充実させ、本市の新たな都市拠点の形成を図ることとしている。

平成15年度には、地区のまちづくりに活用するため、大規模空闲地となっていた国鉄清算事業本部用地（約3ha）を取得し、その後、基盤整備の事業化に向けて具体的な調査検討を進めていたが、平成21年2月に県から「連続立体交差事業と土地区画整理事業の両事業の実現は現状では困難」との見解が示されたことから、連続立体交差事業を前提としない「鹿児島駅周辺整備の方針」を作成した。現在まで、駅周辺基盤整備について、関係機関等との協議を進めてきており、平成23年度からは旧国鉄清算事業本部用地を先行して活用することについて具体的に検討し、平成23年度は導入機能やゾーニングなど土地利用の一定の方向性を示した「鹿児島駅周辺土地利用の基本的な考え方」を取りまとめ、平成24年度は、基本的な考え方をもとに、土地利用のより具体的で、実現性を持った方針となる「鹿児島駅周辺土地利用基本計画」を策定し、平成25年度は施設基本計画の作成や、中核的な複合施設についての基礎調査等を行うこととしている。

また、鹿児島駅周辺が面的広がりのある都市拠点となるには、周辺に隣接する磯・多賀山、上町、本港区などが有する豊富な歴史・文化等の資源と都市機能が融合し、総合的な魅力を発揮していくことが求められることから、平成19年度に地域資源の有効活用と地域活性化をめざし、地域住民等によるワークショップを立ち上げ、平成21年度には住民と行政等との共通のまちづくり指針となる「まちづくりガイドライン」を策定した。平成22年度からは、ガイドラインを基にした地域住民主体のまちづくり活動への支援を行っている。（平成25年度予算60,860千円）

12 本市施行の土地区画整理事業（土地区画整理法第3条第4項による事業）

(1) 換地処分完了地区

地区名	事業年度	施行区域の面積（㎡）	総事業費（千円）	減歩率（％）	換地処分
① 脇田地区	昭和35～昭和54	505,065	353,120	19.99	昭和48.3.3
② 紫原地区	昭和35～昭和60	1,456,562	856,465	24.36	昭和50.8.27
③ 谷山塩屋地区	昭和38～平成6	193,802	121,235	21.52	平成元.7.17
④ 笹貫地区	昭和40～平成9	281,408	262,431	25.23	平成元.8.28
⑤ 武・田上地区	昭和42～平成8	637,441	6,842,100	22.51	平成3.3.15
⑥ 桜川地区	昭和44～平成10	638,190	4,122,408	20.06	平成4.5.11
⑦ 小松原地区	昭和45～平成10	425,286	2,447,809	20.78	平成4.1.27
⑧ 桜川第二地区	昭和58～平成13	327,303	9,782,154	38.62	平成11.2.5
⑨ 谷山第一地区	昭和53～平成15	1,278,010	28,244,882	19.17	平成12.6.6
⑩ 原良第一地区	昭和63～平成19	368,724	22,394,527	20.05	平成15.2.21
⑪ 原良第二地区	平成7～平成29	203,780	21,036,000	21.73	平成25.2.26

（ ）内は減価補償金による公共用地取得後の減歩率

(2) 事業施行中の地区

① 宇宿中間地区土地区画整理事業

本地区は、道路、公園等の公共施設が未整備のまま宅地化が進み、市街地の発展と都市機能が阻害されている状況にある。

このため、都市計画道路宇宿広木線（16～20m）ほか5路線を含めた公共施設の整備改善を図るとともに、居住環境の良好な住宅地としての機能を十分発揮できるような土地利用を図るため、土地区画整理事業を行っている。

また、関連事業として都市基盤河川改修事業による脇田川改修事業用地815㎡（48,207千円）及び小宅地対策事業による5,243㎡（347,431千円）の用地先行取得を行った。

平成元年12月25日に区域について都市計画決定を行い、平成3年3月25日に事業計画を決定した。平成25年2月8日には第5回目の事業計画の変更を行った。

総事業費 46,066,000千円

内 訳	国庫補助金	9,932,129千円	総面積	818,277㎡
	市町村負担金	11,310,544千円	事業年度	
	保留地処分金	1,664,400千円	平成2年度～平成32年度	
	河川管理者橋梁負担金	1,103,031千円	※清算期間5年を含む。	
	公共施設管理者負担金	3,682,340千円	（工事概成 平成24年度	
	地方特定道路	10,067,000千円	換地処分 平成27年度予定）	
	市単独費	8,306,556千円		

土地の種目別対照表

（平成25年2月8日事業計画変更）

種目		施行前		施行後		
		地積 (㎡)	割合 (%)	地積 (㎡)	割合 (%)	
公共用地	国有地	道路	57,305.21	7.01	74,627.81	9.12
		水路	48,440.49	5.92	67,455.32	8.24
		路	13,601.24	1.66	3,078.55	0.38
		計	119,346.94	14.59	145,161.68	17.74
	地友所有地 公共団体	道路	33,157.56	4.05	158,126.22	19.32
		公園	112.00	0.01	24,758.48	3.03
		園	1,053.45	0.13	-	-
		川	34,323.01	4.19	182,884.70	22.35
	合計		153,669.95	18.78	328,046.38	40.09
	宅地	民有地	田	290,145.16	35.46	-
畑			36,209.71	4.43	-	-
地			253,564.68	30.99	477,990.84	58.42
林			15,811.58	1.93	-	-
野			46,789.57	5.72	-	-
種地			10,898.54	1.33	-	-
衆用道路			4,131.60	0.50	-	-
道用地			199.00	0.02	199.00	0.02
墓			641.00	0.08	641.00	0.08
悪水路			34.00	0.01	-	-
池			1,510.00	0.18	-	-
計			659,934.84	80.65	478,830.84	58.52
保留地			-	-	11,400.00	1.39
測量増減		4,672.43	0.57	-	-	
総計		818,277.22	100.00	818,277.22	100.00	

② 吉野地区土地区画整理事業

本地区は、道路、公園等の公共施設が未整備のまま宅地化が進み、市街地の発展と都市機能が阻害されている状況にある。

このため、都市計画道路館之馬場通線（幅員25m）ほか8路線と区画道路など公共施設の整備改善を図るとともに、居住環境の良好な住宅地としての機能が発揮できるような土地利用を図るため、土地区画整理事業を行っている。

昭和62年2月4日に区域について都市計画決定を行い、平成4年10月28日に事業計画を決定した。平成20年3月25日には第4回目の事業計画の変更を行った。

総事業費 52,800,000千円

内 訳	}	国庫補助金	16,986,950千円	総面積	1,141,412㎡
		市町村負担金	15,944,050千円	事業年度	
		地方特定道路	9,822,000千円	平成4年度～平成27年度	
		市単独費	10,047,000千円	※清算期間含まず。	
		（工事概成 平成26年度予定） （換地処分 平成27年度予定）			

土地の種目別対照表			（平成20年3月25日事業計画変更）			
種目			施行前		施行後	
			地積（㎡）	割合（％）	地積（㎡）	割合（％）
公共用地	国有地	道 路	1,108.61	0.10	1,108.61	0.10
	地方公共団体 所有地	道 路	107,103.49	9.38	275,378.51	24.12
		公 園	－	－	34,809.19	3.05
		水 路	1,485.30	0.13	－	－
		計	108,588.79	9.51	310,187.70	27.17
合 計		109,697.40	9.61	311,296.31	27.27	
宅 地		畑	482,010.09	42.23	－	－
	民 有 地	宅 地	437,979.37	38.37	823,765.27	72.17
		山 林	507.00	0.05	－	－
		原 野	6,617.51	0.58	－	－
		墓 地	655.74	0.06	648.38	0.06
		水 道 用 地	3,475.00	0.30	－	－
		公 衆 用 道 路	16,250.10	1.42	－	－
		雑 種 地	49,444.44	4.33	－	－
		計	996,939.25	87.34	824,413.65	72.23
	国有地	普 通 財 産	7,088.52	0.62	5,702.00	0.50
合 計		1,004,027.77	87.96	830,115.65	72.73	
測 量 増 減			27,686.79	2.43	－	－
総 計			1,141,411.96	100.00	1,141,411.96	100.00
<p>③ 谷山第二地区土地区画整理事業</p> <p>本地区は、隣接する谷山第一地区土地区画整理事業の完了に伴う人口の増加や交通量の増大にもかかわらず都市基盤の整備が遅れ、生活環境の改善が望まれている地域であることから、居住環境の良好な住宅地を創出し、当該地区の秩序ある発展に寄与するため、土地区画整理事業を行っている。御所下和田名線や惣福森山線等の都市計画道路、木之下川を含む河川及び公園等の公共施設の整備を行うこととしている。</p> <p>平成8年3月29日に区域について都市計画決定を行い、平成9年8月19日に事業計画を決定した。平成24年10月23日には第4回目の事業計画の変更を行った。</p>						

総事業費 32,300,000千円

内 訳	国庫補助金	8,149,460千円	総面積	728,700㎡
	市町村負担金	8,683,260千円	事業年度	平成9年度～平成28年度
	保留地処分金	1,807,338千円	※清算期間含まず。	
	公共施設管理者負担金	1,807,500千円	(工事概成 平成26年度予定)	
	河川管理者橋梁負担金	80,229千円	(換地処分 平成28年度予定)	
	地方特定道路 市単独費	7,853,000千円 3,919,213千円		

土地の種目別対照表 (平成24年10月23日事業計画変更)

種 目			施 行 前		施 行 後		
			地 積 (㎡)	割合 (%)	地 積 (㎡)	割合 (%)	
公共用地	国 有 地	道 路	31,143.02	4.28	29,554.05	4.06	
		河 川	4,537.00	0.62	6,707.23	0.92	
		水 路	9,219.14	1.26	8,621.09	1.18	
		計	44,899.16	6.16	44,882.37	6.16	
	地方 所有 公共 団 体 地	道 路	23,284.94	3.19	130,277.93	17.87	
		公 園	741.28	0.10	22,051.08	3.03	
		水 路	698.58	0.10	-	-	
		計	24,724.80	3.39	152,329.01	20.90	
	合 計			69,623.96	9.55	197,211.38	27.06
	宅 有 地	民 有 地	田	115,819.06	15.90	519,268.91	71.26
畑			4,926.12	0.68			
宅 地			241,169.37	33.08			
山 林			2,881.30	0.40			
原 野			14.00	0.01			
公 衆 用 道 路			4,464.76	0.61			
雑 種 地			3,808.47	0.52			
鉄 道 用 地			273.55	0.04			
計		373,356.63	51.24				
公 有 地		国 有 地	506.00	0.07			
	県 有 地 市 有 地 計	243,546.26 39,715.01 283,767.27	33.42 5.45 38.94				
合 計			657,123.90	90.18	519,268.91	71.26	
保 留 地			-	-	12,220.00	1.68	
測 量 増 減			1,952.43	0.27	-	-	
総 計			728,700.29	100.00	728,700.29	100.00	

④ 原良第三地区土地区画整理事業

本地区は、第二種中高層住居専用地域及び準住居地域に指定されており、都市計画道路原良山手線（幅員15m）ほか4路線を含む道路、公園その他の公共施設の整備改善を行い、市街地の住宅地として安全で良好な都市環境を創出するため、土地区画整理事業を行っている。

昭和37年2月28日に区域について都市計画決定を行い、平成12年3月24日に事業計画を決定した。平成20年3月25日には第2回目の事業計画の変更を行った。

総事業費 18,901,000千円

内 訳	{	国庫補助金	5,842,750千円	総面積	155,801㎡
		市町村負担金	5,759,250千円	事業年度	
		公共施設管理者負担金	1,015,000千円	平成11年度～平成28年度	
		市単独費	3,893,000千円	※清算期間含まず。	
		地方特定道路	2,391,000千円	（工事概成 平成25年度予定） （換地処分 平成28年度予定）	

土地の種目別対照表 (平成20年3月25日事業計画変更)

種 目			施 行 前		施 行 後		
			地 積 (㎡)	割合 (%)	地 積 (㎡)	割合 (%)	
公 共 用 地	国 有 地	道 路	-	-	-	-	
		水 路	3,133.46	2.01	1,655.09	1.06	
		計	3,133.46	2.01	1,655.09	1.06	
	地 方 公 共 団 体	所 有 地	道 路	13,226.62	8.49	39,368.73	25.27
			公 園	-	-	4,800.05	3.08
		河 川	-	-	-	-	
		計	13,226.62	8.49	44,168.78	28.35	
		合 計	16,360.08	10.50	45,823.87	29.41	
宅 地	民 有 地	田 畑	2,308.00	1.48	109,976.75	70.59	
		地	-	-			
		宅 地	128,849.28	82.70			
		公 衆 用 道 路	581.32	0.37			
		雑 種 地	1,183.00	0.76			
	計	132,921.60	85.31				
	公 有 地	国 有 地	有 地	436.35	0.28		
有 地			-	-			
	市 有 地	有 地	6,022.12	3.87			
計		6,458.47	4.15				
		合 計	139,380.07	89.46	109,976.75	70.59	
		保 留 地	-	-	-	-	
		測 量 増 減	60.47	0.04	-	-	
		総 計	155,800.62	100.00	155,800.62	100.00	

⑤ 郡山中央土地区画整理事業

本地区は、道路、公園等の公共施設が未整備のまま宅地化が進み、居住環境と都市機能が阻害されている状況にある。

このため、都市計画道路松尾城線（17m）ほか4路線を含めた公共施設の整備改善を図るとともに、居住環境の良好な住宅地としての機能を十分発揮できるような土地利用を図るため、土地区画整理事業を行っている。

また、土地区画整理事業と併行して、地区内を流れる二級河川甲突川及び油須木川の河川改修を行い、水害等の災害に強いまちづくりを行うこととしている。

平成7年4月3日に区域について都市計画決定を行い、平成8年3月29日に事業計画を決定した。平成20年6月30日には、第4回目の事業計画の変更を行った。

総事業費 14,584,000千円

内 訳	国庫補助金	3,138,550千円	総面積	462,459㎡
	市町村負担金	2,684,450千円	事業年度	
	公共施設管理者負担金	2,727,768千円	平成7年度～平成26年度	
	市単独費	3,990,232千円	※清算期間含まず。	
	地方特定道路	1,145,000千円	（工事概成 平成25年度予定） （換地処分 平成26年度予定）	
	保留地処分金	898,000千円		

土地の種目別対照表 (平成20年6月30日事業計画変更)

種 目				施 行 前		施 行 後	
				地 積 (㎡)	割合 (%)	地 積 (㎡)	割合 (%)
公 共 用 地	国 有 地	道 路	26,799.18	5.80	22,426.87	4.85	
		河 水	23,734.11	5.13	34,708.35	7.51	
		計	6,765.40	1.46	264.98	0.06	
	地 友 公 共 団 体	道 路	57,298.69	12.39	57,400.20	12.42	
		公 河	22,541.06	4.87	86,860.23	18.78	
		計	—	—	22,310.34	4.83	
合 計			22,541.06	4.87	109,170.57	23.61	
合 計			79,839.75	17.26	166,570.77	36.03	
宅 地	民 有 地	田 畑	148,387.41	32.09	277,188.47	59.93	
		地 畑	15,222.00	3.29			
		公 衆 用 道 路	117,734.99	25.46			
		雑 種 地	1,010.44	0.22			
		計	29,476.21	6.37			
	公 有 地	国 有 地	311,831.05	67.43			
		県 有 地	1,987.99	0.43			
		市 有 地	656.90	0.14			
合 計			68,143.55	14.74			
合 計			70,788.44	15.31			
合 計			382,619.49	82.74			
保 留 地			—	—	18,700.00	4.04	
測 量 増 減			—	—	—	—	
総 計			462,459.24	100.00	462,459.24	100.00	

⑥ 谷山駅周辺地区土地区画整理事業

本地区は、旧谷山市域において中心的な役割を担ってきた地区であり、鹿児島市の副都心核となる地区である。しかしながら、周辺新市街地が発展する反面、本地区では道路、駅前広場等のインフラが未整備であり、国道225号沿いや市道春日線沿いにおける活力が低下している状況にある。

本事業は、JR指宿枕崎線の鉄道高架化事業と併せて幹線道路、駅前広場、公園の整備と密集住宅地における生活環境の改善等の一体的なまちづくりを行い、副都心核として魅力ある都市空間の形成や都市機能の集積を図ることを目的としている。

平成18年7月7日に区域について都市計画決定を行い、平成20年3月21日に事業計画を決定した。

総事業費 24,373,000千円

内 訳	}	国庫補助金	7,898,500千円	総面積	153,413㎡
		市町村負担金	7,898,500千円	事業年度	
		地方特定道路	505,000千円	平成19年度～平成31年度	
		市単独費	8,069,200千円	※清算期間含まず。	
		鉄道負担金	1,800千円	（工事概成 平成29年度予定） （換地処分 平成31年度予定）	

土地の種目別対照表

（平成20年3月21日事業計画決定）

種 目		施 行 前		施 行 後		
		地 積 (㎡)	割合 (%)	地 積 (㎡)	割合 (%)	
公 共 用 地	国 有 地	道 路	2,168.25	1.41	6,893.14	4.49
		河 水	1,383.32	0.90	2,553.39	1.66
		川 路	367.50	0.24	56.53	0.04
		計	3,919.07	2.55	9,503.06	6.19
	地 方 公 共 団 体 所 有 地	道 路	15,848.79	10.33	50,579.57	32.97
		公 園	-	-	4,670.18	3.04
		河 水	1,497.60	0.98	-	-
		川 路	400.72	0.26	-	-
		計	17,747.11	11.57	55,249.75	36.01
	合 計		21,666.18	14.12	64,752.81	42.20
宅 地	民 有 地	田 畑	1,448.91	0.95	88,660.24	57.80
		地 林	7,519.82	4.90		
		野 道	98,846.45	64.43		
		路 地	184.00	0.12		
		用 種	-	-		
		衆 用	865.49	0.57		
		道 用	357.77	0.23		
	計	12,659.79	8.25			
	公 有 地	市 有 地	121,882.23	79.45		
		県 有 地	1,873.30	1.22		
開 発 公 社		2,860.00	1.86			
合 計		3,002.88	1.96			
合 計		7,736.18	5.04			
保 留 地		129,618.41	84.49	88,660.24	57.80	
測 量 増 減		-	-	-	-	
総 計		2,128.46	1.39	-	-	
総 計		153,413.05	100.00	153,413.05	100.00	

⑦ 谷山第三地区土地区画整理事業

本地区は、道路、公園等の公共施設が未整備なまま市街化が進み、居住環境の悪化や救急活動及び防災面の問題、また、県道小山田谷山線の朝夕の交通渋滞、歩行者の安全確保等多くの課題が生じている。

このため、惣福御所下線や向川原惣福線等の都市計画道路や区画道路、公園、水路等の公共施設を整備し、居住環境の良好な住宅地としての土地利用を図るため土地区画整理事業を行っている。

平成20年9月26日に区域について都市計画決定を行い、平成23年10月14日に事業計画を決定した。

総事業費 24,800,000千円

内訳	国庫補助金	9,738,500千円	総面積	348,818㎡
	市町村負担金	9,738,500千円	事業年度	
	保留地処分金	415,500千円	平成23年度～平成39年度	
	地方特定道路	1,312,000千円	※清算期間含まず。	
	市単独費	3,595,500千円	(工事概成 平成37年度予定) (換地処分 平成39年度予定)	

土地の種目別対照表 (平成23年10月14日事業計画決定)

種目				施行前		施行後		
				地積 (㎡)	割合 (%)	地積 (㎡)	割合 (%)	
公共用地	国有地	道河公	路川園	-	-	-	-	
				6,488.72	1.86	6,488.72	1.86	
			計	6,488.72	1.86	6,488.72	1.86	
	地方公共団体所有地	道公緑水	路園地	31,864.87	9.14	85,743.10	24.58	
			地路	172.00	0.05	10,465.30	3.00	
				-	-	-	-	
			計	4,097.23	1.17	6,570.36	1.88	
	合計				36,134.10	10.36	102,778.76	29.46
	合計				42,622.82	12.22	109,267.48	31.32
	宅地	民有地	宅山原雑公基	田畑	11,785.84	3.38	235,800.84	67.60
				35,789.11	10.26			
地林野				228,692.59	65.56			
				91.00	0.03			
種用地				384.00	0.11			
衆用道路				10,429.83	2.99			
公有地		市県国	地地地	4,593.04	1.32			
				404.00	0.12			
			計	292,169.41	83.77			
			市有地	279.00	0.08			
	248.80	0.07						
	2,638.00	0.75						
	3,165.80	0.90						
合計				295,335.21	84.67	235,800.84	67.60	
保留地				-	-	3,750.00	1.08	
測量増減				10,860.29	3.11	-	-	
総計				348,818.32	100.00	348,818.32	100.00	

13 清算（特別会計）

清算事務は、整理前後の土地を評価し、整理前の権利価格と整理後の換地評価額との差額を金銭により清算して事業の収束を図るものである。

本市の旧市街地全域に及んだ復興土地区画整理事業については、昭和33年度に清算特別会計を設定し、事務に着手した。その後、同特別会計に脇田、紫原、谷山塩屋、笹貫、武・田上、小松原、桜川、桜川第二、谷山第一、原良第一及び原良第二地区を加え、清算事務を行っている。

○ 徴収・交付実績

清算事務計画面積 1,675.42 (ha)

清算事務実施面積 1,655.04 (ha)

(単位：千円，%)

地区	面積 (ha)	平成24年度までの徴収金			平成25 年度徴 収見込	平成24年度までの交付金			平成25 年度交 付見込
		総額	実績	徴収率 (%)		総額	実績	交付率 (%)	
復興地区	1,043.86	1,329,710	1,329,710	100.0	-	1,236,120	1,236,120	100.0	-
脇田	50.51	45,386	45,386	100.0	-	40,579	40,579	100.0	-
紫原	145.66	59,521	59,521	100.0	-	57,921	57,921	100.0	-
谷山塩屋	19.38	15,084	15,084	100.0	-	55,892	55,892	100.0	-
笹貫	28.14	24,439	24,439	100.0	-	87,290	87,290	100.0	-
武・田上	63.74	132,110	132,110	100.0	-	130,121	130,121	100.0	-
小松原	42.53	47,707	47,707	100.0	-	47,519	47,519	100.0	-
桜川	63.82	65,962	65,962	100.0	-	65,689	65,689	100.0	-
桜川第二	32.73	8,526	8,526	100.0	-	8,525	8,525	100.0	-
谷山第一	127.80	85,633	85,633	100.0	-	85,622	85,622	100.0	-
原良第一	36.87	121,306	121,306	100.0	-	121,114	121,114	100.0	-
原良第二	20.38	-	-	-	41,620	-	-	-	44,100
計	1,675.42	1,935,384	1,935,384	100.0	41,620	1,936,392	1,936,392	100.0	44,100

14 連続立体交差事業

(1) 谷山地区連続立体交差事業

谷山地区では、地区内を南北に走るJR指宿枕崎線により市街地が分断されており、地域の一体的なまちづくりが困難な状況にある。特に、東西を結ぶ幹線道路など交通ネットワークを形成する上で、鉄道との平面交差が大きな障害となっており、踏切による事故や交通渋滞など、都市活動やバランスのとれた都市の発展が阻害されている。

そこで、谷山地区のまちづくりと併せ、JR指宿枕崎線の谷山駅付近から慈眼寺駅付近までの約2.7kmの区間を連続して高架化することにより、当区間の踏切を除去し、東西の地域分断の解消と都市生活の安全性・快適性の向上など、都市環境の改善を図ることとしている。

鹿児島県知事により、平成18年7月7日に都市計画の決定、平成19年12月25日に都

市計画事業の認可がなされた。また、平成20年10月4日には起工式を開催し、平成22年3月6日に仮線一次切替を行った。

- ・都市計画事業の種類 鹿兒島都市計画 都市高速鉄道事業
- ・都市計画事業の名称 1号 九州旅客鉄道株式会社 指宿枕崎線
- ・事業区間 工事区間：3,140m, 高架化区間：2,725m
- ・事業認可期間 平成19年12月25日～平成29年3月31日
- ・総事業費 概算14,949,000千円
- ・除却踏切 15か所（諏訪・試験場・伊作街道踏切など）
- ・幹線道路 5路線（御所下和田名線、惣福森山線など）
- ・施工方式 仮線方式（永田川橋梁部は別線方式）

15 建築確認事務

(1) 経緯

昭和25年5月に制定された建築基準法は、その後の社会情勢の変化、建築技術の進歩等により実情にそぐわない点が生じてきたことなどから、昭和45年6月に同法の一部が改正された。これを受け、本市でも昭和46年3月25日付けで建築指導課を設置し、特定行政庁として、それまで県が行っていた建築確認事務等を行うこととなった。

その後、平成10年6月12日の同法の一部改正（平成11年5月1日施行）により、それまで特定行政庁の建築主事が行ってきた確認・検査業務が、新たに国土交通大臣又は都道府県知事が指定した民間機関（指定確認検査機関）でも行えるようになった。

平成18年6月21日の同法の一部改正（平成19年6月20日施行）では、一定規模以上の建築物について都道府県知事又は都道府県知事が指定する構造計算適合性判定機関による構造計算審査や、3階建以上の共同住宅についての中間検査が義務付けられることとなった。

なお、本市では同法で定められているもの以外に、不特定多数の者が利用する施設の安全を確保するため、3階建以上でかつ延べ面積が500㎡を超える劇場・病院・福祉施設・学校等についても、条例により中間検査の対象としている。

(2) 実績

① 建築許可確認申請等

（単位：件）

区分	20	21	22	23	24
許 可 等 申 請 （ う ち 仮 使 用 承 認 申 請 ）	101 (20)	139 (18)	130 (4)	119 (14)	107 (12)
建 築 物 等 確 認 申 請 （ う ち 計 画 通 知 ）	1,469 (84)	1,399 (129)	1,277 (129)	1,343 (91)	1,561 (111)
合 計	1,570	1,538	1,407	1,462	1,668

② 違反建築物取扱件数及び是正件数

建築パトロールにより違反工事の早期発見に努め、現場指導を実施するとともに、違反建築物防止週間に、市民へのPRを行っている。建築工事に対する一般市民の関心は高く、相談、通報等による現場調査が多くなっている。

（平成24年度）

違反の内容	件数	処分又は是正完了	未完了
建築基準法第6条違反（確認申請手続）	9	9	0
建築基準法第27条違反（防火構造・耐火構造等）	1	1	0
建築基準法第20条違反（構造耐力上の規定）	0	0	0
建築基準法第48条違反（用途地域内の建築制限）	0	0	0
建築基準法第52条違反（容積率制限）	2	2	0
建築基準法第85条違反（仮設許可） 第5項違反	0	0	0
建築基準法第89条違反（確認表示板未掲示）	8	8	0
合 計	20	20	0

16 住 宅

本市の住宅状況は、平成20年10月1日現在の住宅土地統計調査によると次のとおりである。住宅総数が世帯数を上回っており、戸数面では充足している。

住宅数 （単位：戸）

総数	居住世帯あり	居住世帯なし			
		空き家	建築中	一時現在者のみ	計
305,850	262,720	41,540	360	1,220	43,120

※標本調査による推計値であるため、表中の個々の数値の合計が必ずしも総数とは一致しない。

(1) 市営住宅等

市営住宅は、市民生活の安定と社会福祉の増進に寄与するために、低額所得者等に対して賃貸する住宅である。

本市では、良質な住宅ストックの形成を図るため、耐用年数や居住水準を考慮しながら昭和57年度から建替を進めている。

また、平成15年度から既存の市営住宅の有効活用を図るため、全面的改善や個別改善を行う市営住宅ストック総合改善事業に取り組んでいる。

これら市営住宅の整備にあたっては、バリアフリー対策の充実を進めることを基本とし、世帯構成を考慮した住宅の供給など、少子高齢化の進行を踏まえた対応を図っている。

また平成9年度からは、市街化調整区域の指定既存集落の活力を保持するため、既存集落活性化住宅建設事業に、さらに、平成20年度からは、旧5町域の活性化や定住促進を図るため、地域活性化住宅の建設に取り組んでいる。これらの住宅について

は、地域内の小学校の児童数確保のため、主に若い世帯を入居対象としているが、入居後相当年数が経過すると、入居者に児童がいなくなり、事業の実効性が確保できなくなることから、平成22年度からは定期借家制度(期限付入居)を実施している。

さらに、優良な民間賃貸住宅等に対して一定の範囲で助成し、公的住宅として活用する優良賃貸住宅供給促進事業を推進している。

① 戸数(平成25.4.1現在) (単位:戸)

住宅種別	平成24年度完成戸数		平成25年度建設計画戸数				平成25年度未定管理戸数
	用 途 廃 止 減 失	平成24年度 完 成	用 途 廃 止 減 失	平成24年度 着 工 (複数年)	平成25年度 着 工 (単 年)	平成25年度 着 工 (複数年)	
公 営	60	35	32	74	0	59	10,731
特 公 賃	0	0	0	0	0	0	24
改 良	0	0	0	0	0	0	227
更 新	0	24	0	0	0	30	158
そ の 他	0	0	0	0	0	0	6
計	60	59	32	74	0	89	11,146

(注) 公営(公営住宅)…公営住宅法に基づき供給する住宅
 特公賃(特定公共賃貸住宅)…特定優良賃貸住宅の供給の促進に関する法律に基づき市が直接供給する住宅
 改良(改良住宅)…住宅地区改良法に基づき供給する住宅
 更新(更新住宅)…改良住宅等改善事業制度要綱に基づき供給する住宅
 その他(その他住宅)…公営住宅、特定公共賃貸住宅、改良住宅及び更新住宅以外の住宅

入居収入基準及び住宅使用料 (平成25.4.1現在)

公 営 住 宅	諸控除後月収 158,000円以下 ※裁量階層は, 214,000円以下
特 公 賃 住 宅	諸控除後月収 158,001円以上487,000円以下 (ただし, 50歳未満の場合は104,001円以上)
改 良 住 宅	諸控除後月収 114,000円以下 ※裁量階層は, 139,000円以下

住宅使用料は毎年度、入居者の収入に基づき、近傍同種の住宅の家賃以下で算出する。

$$= \text{家賃算定基礎額} \times \text{市町村立地係数} \times \text{規模係数} \times \text{経過年数係数} \times \text{利便性係数}$$
 (収入により異なる。)(各住戸で異なる。)

※裁量階層：入居者が身体障害者である場合その他の公営住宅法施行令で定める者

② 建設実績・計画(平成25.4.1現在) (単位:千円)

区 分	平 成 2 4 年 度 戸 数				平成25年度計画	
	戸 数	事業費	交付金	市 費	戸 数	事業費
公 営	[30] 79	764,169	288,145	476,024	[74] 59	1,258,236
更 新	[24] 0	287,376	184,638	102,738	[0] 30	92,083
計	[54] 79	1,051,545	472,783	578,762	[74] 89	1,350,319

[]内は23年度の着工分
下段は24年度の着工分

[]内は24年度の着工分
下段は25年度の着工分

③ ストック総合改善実績・計画（平成25. 4. 1 現在）						（単位：千円）	
区 分	平成24年度戸数				平成25年度計画		
	戸 数	事業費	交付金	市 費	戸 数	事業費	
公 営	[60] 90	760,142	245,832	514,310	[60] 30	494,051	
[]内は23年度の着工分 下段は24年度の着工分				[]内は24年度の着工分 下段は25年度の着工分			
④ 構造別現況						（平成25. 4. 1 現在）	
種 別	戸 数	構 造 別 (戸)					
		木 造	簡 平	簡 二	低 耐	中 耐	高 耐
公 営 住 宅	10,689	241	28	16	96	9,138	1,170
特 公 賃 住 宅	24	9	0	0	0	15	0
改 良 住 宅	227	0	0	0	0	177	50
更 新 住 宅	158	0	0	0	0	31	127
そ の 他 住 宅	6	6	0	0	0	0	0
計	11,104	256	28	16	96	9,361	1,347
(2) 市域内の住宅・団地等							
① 住 宅（公的住宅）						（平成25. 4. 1 現在）	
所 管 区 分		賃 貸 戸 数	分 譲 戸 数	主 な 団 地 数	事 業 開 始		
市 営 住 宅		11,104	0	74	昭和21年度		
県 営 住 宅		4,796	0	21	27 〳		
県 住 宅 供 給 公 社		122	3,646	25	38 〳		
合 計		16,022	3,646	120			
② 宅地開発						（平成25. 4. 1 現在 5 ha以上の団地）	
事 業 区 分		団 地 数	団 地 面 積 (ha)		計 画 戸 数 (戸)		
公 営	市	2	33.08		643		
	開 発 事 業 団	8	494.71		14,458		
	市 住 宅 公 社	4	274.50		11,324		
	県 住 宅 供 給 公 社	4	199.26		5,516		
	小 計	18	1,001.55		31,941		
民 間 事 業 者		32	734.85		21,432		
組 合 施 行 区 画 整 理 事 業		12	537.85		10,392		
合 計		62	2,274.25		63,765		
17 建築物の維持保全							
(1) 公共建築物ストックマネジメント事業							
・ 事業目的							
公共施設の老朽化が進む中、既存の公共建築物について中長期的な視点に立った保全計画を作成し、計画的で効率的な維持保全を行うことにより、長寿命化と更新費用の縮減を図る。							
・ 事業内容							
既存公共建築物の劣化状況調査を行い、施設ごとに保全計画を作成する。また、施設情報の一元化や施設管理者等への支援・助言を行う。							

平成25年度は、保全計画の見直し・作成、建築物の日常点検の推進（日常点検強化月間の実施）及び保全ニュースの配信などを行う。また、CO₂排出削減等の環境対策との連携を図るとともに、省エネルギー・コスト縮減を図るため、建設資材等のリユースやインハウスエスコ（受電契約の適正化などの検討）に取り組む。

・予算額 平成25年度 15,078千円

18 建築物の環境対策

(1) 公共建築物省エネルギー推進事業

・事業目的

平成24年度まで実施した公共建築物環境対策調査研究事業の成果を活用し、公共建築物の省エネルギー運転支援及び環境対策技術の導入に取り組み、一層の省エネルギー化を推進することにより低炭素化を図る。

・事業内容

省エネルギー運転支援を行うとともに、ストックマネジメント事業と連携して、費用対効果を検討しながら、既存施設や、新築及び改修工事に環境対策技術を積極的に取り入れる。

① 公共建築物における省エネルギー 25%の取組

運転支援や環境対策技術導入により、省エネルギー 25%（平成22年度比）を目指す。

平成25年度対象施設：城南保育園等20施設程度

② 公共建築物における省エネルギー 50%の取組

環境対策技術の導入による省エネルギー 50%を目指した「超省エネルギーモデル」を計画、推進する。

平成25年度対象施設：桜島支所、城西福祉館

③ 鹿児島大学との連携

公共建築物における省エネルギーの取組に関する評価、検証、提案を行う。

④ 民間への普及促進

取組状況の情報提供により、民間への普及を図る。

・予算額 平成25年度 3,321千円

19 土 木

(1) 市域内道路現況（平成25. 4. 1 現在）

種 目	実延長 (km)	面 積 (㎡)	舗 装		未舗装延長 (km)	
			延 長 (km)	延長舗装率 (%)		
国 道	101.87	2,154,657	101.87	100.00	0	
県 道	285.70	5,499,683	285.70	100.00	0	
内 訳	主要地方道	185.96	3,655,437	185.96	100.00	0
	一般地方道	99.74	1,844,246	99.74	100.00	0
市 道	2,612.05	19,190,478	2,281.29	87.34	330.85	
計	2,999.62	26,844,818	2,668.86	88.98	330.85	

(2) 市 道

① 幅員別状況

(平成25. 4. 1 現在 単位: km)

実延長	規 格 改 良 済					未 改 良			
	車道19.5m以上	車道13.0m以上	車道5.5m以上	車道4.0m以上	車道4.0m未満	車道5.5m以上	車道4.5m以上	車道3.5m以上	車道3.5m未満
2,612.05	9.68	39.83	724.25	907.28	409.13	11.37	15.00	75.90	419.61

② 舗装種類別状況

(平成25. 4. 1 現在 単位: km, %)

実延長	セメント系舗装	アスファルト系舗装		延長舗装率	簡易二種(防塵)	砂利道
		高級	簡易(一種)			
2,612.05	91.51	110.23	2,079.55	87.34	290.01	40.75

(注) ア 市道簡易舗装二種(防塵舗装)を含め延長舗装率 98.4%

イ 市道路線総数 8,165

(市街地区 2,408 吉野地区 613 伊敷地区 800 田上地区 860
 東桜島地区 86 谷山地区 2,152 吉田地区 212 桜島地区 254
 喜入地区 377 郡山地区 148 松元地区 255)

③ 市道認定のための路線の条件

市道に認定する路線は、法令に定めがあるものを除き、次に掲げる要件のいずれかに該当するものとする。

ア 交通上重要な道路

イ 国道、県道又は市道のいずれかに連絡する道路

ウ 国道又は県道の路線変更等により本市に引き継がれる道路

エ 都市計画法(昭和43年法律第100号)、土地区画整理法(昭和29年法律第119号)、都市再開発法(昭和44年法律第38号)、新住宅市街地開発法(昭和38年法律第134号)等の法令の規定に基づき設置された道路で、法令の規定により本市に帰属されるもの

オ 国有財産で道路用地として無償貸付けを受ける道路

カ 一般の通行に供している道路で、無償で取得できるもの

キ 小学校区ごとに設置されたスクールゾーン委員会が指定する通学通園路又は公共施設に連絡する道路

なお、市道認定路線の構造条件等、市道路線認定の申請手続等については別に定めている。

(3) 道路側溝の改良状況 (各年4.1現在 単位:m)					
区分 \ 年度	20	21	22	23	24
市街地区	2,467	1,844	1,189	3,493	2,946
吉野・東桜島地区	1,843	2,357	1,849	653	650
伊敷地区	4,094	7,943	5,141	2,672	2,516
田上宇宿地区	1,405	1,496	1,048	2,235	1,386
吉田地区	1,898	1,581	1,557	1,954	3,417
桜島地区	392	374	440	1,741	1,448
松元地区	2,206	2,270	1,847	1,472	1,105
郡山地区	2,411	2,313	1,529	1,946	1,770
谷山地区	5,421	5,041	4,478	5,342	3,503
喜入地区	1,721	1,649	1,200	994	2,148
施工延長	23,858	26,868	20,278	22,502	20,889
(4) 道路新設改良状況 (各年4.1現在 単位:m)					
区分 \ 年度	20	21	22	23	24
市街地区	2,080	2,116	3,202	1,259	1,231
吉野・東桜島地区	703	1,238	481	285	950
伊敷地区	1,453	1,727	1,942	1,139	1,304
田上宇宿地区	843	631	516	1,379	907
吉田地区	1,440	1,679	931	1,676	2,263
桜島地区	0	0	0	0	0
松元地区	566	587	581	527	464
郡山地区	631	722	645	823	988
谷山地区	2,540	3,308	3,874	2,991	3,019
喜入地区	2,873	1,151	980	301	1,761
施工延長	13,129	13,159	13,152	10,380	12,887
(5) 排水路(河川水路)新設改良状況(市管理河川水路) (各年4.1現在 単位:m)					
地区名 \ 年度	20	21	22	23	24
市街地区	994	1,411	1,485	958	644
吉野・東桜島地区	352	487	291	135	279
伊敷地区	82	430	0	0	40
田上宇宿地区	77	72	143	61	3
谷山地区	793	1,132	1,281	393	802
合計	2,298	3,532	3,200	1,547	1,768

(6) 橋梁現況

(平成25. 4. 1 現在 単位：m)

地区別	永 久 橋		木 橋		計	
	橋数	延 長	橋数	延 長	橋数	延 長
市街地区	128	3,450.0	0	0	128	3,450.0
吉野地区	27	287.6	0	0	27	287.6
東桜島地区	6	93.4	0	0	6	93.4
伊敷地区	80	1,205.8	0	0	80	1,205.8
田上地区	41	796.2	0	0	41	796.2
吉田地区	64	665.8	0	0	64	665.8
桜島地区	29	337.2	0	0	29	337.2
松元地区	35	830.2	0	0	35	830.2
郡山地区	49	626.6	0	0	49	626.6
谷山地区	126	2,389.8	0	0	126	2,389.8
喜入地区	93	637.9	0	0	93	637.9
合計	678	11,320.5	0	0	678	11,320.5

(7) 国・県施行土木事業の負担金

(平成24年度)

事業区分	事業名	負 担 割 合			市負担金 (千円)
		国	県	市	
港湾関係	国直轄港湾改修事業	6.545/10	2.59125/10	0.86375/10	317,672
	県施行重要港湾改修事業	5.95/10	2.43/10	1.62/10	116,993
		4.76/10	3.144/10	2.096/10	△1,667
	県施行港湾環境整備事業	5.95/10	2.43/10	1.62/10	24,300
	県施行港湾施設改良費統合補助事業 (改良)	1/3	1.2/3	0.8/3	19,200
	県施行海岸津波・高潮統合補助事業	1.19/2	0.70632/2	0.10368/2	6,859
県施行海岸保全施設整備事業(老朽化対策事業)	1.19/2	0.648/2	0.162/2	2,757	
急傾斜地砂防関係	急傾斜地崩壊対策事業(公共大規模)	4.75/10	4.75/10	0.5/10	3,800
	〃(公共その他)	4.5/10	4.5/10	1/10	0
	〃(一般大規模)	4.5/10	4.5/10	1/10	23,300
	〃(一般その他)	4/10	5/10	1/10	3,000
	〃(〃)	4/10	4/10	2/10	21,465
道路関係	県単砂防事業	-	9/10	1/10	2,310
	県単道路整備事業(防塵舗装)	-	9/10	1/10	0
		〃(改良)	-	9/10	1/10
	県施行地方特定道路整備事業(改良)	-	9.5/10	0.5/10	19,001
	県施行街路事業(社会資本整備総合交付金)	7/10	2/10	1/10	12,200
	〃(県単道路整備事業(交付金))	6.5/10	2.5/10	1/10	0
〃(地方特定道路整備事業)	-	9.5/10	0.5/10	1,400	
〃(ふれあいとゆとりの道づくり事業)	-	9/10	1/10	0	

(8) 広木駅自動車駐車場

収容台数 39台 (うち障害者等 2台)

平成21年3月14日、JR広木駅前に道路の付属物として設置した自動車駐車場の供用を開始し、併せて駐車料金の徴収に関する条例を制定した。

利用時間 全日

駐車料金 6時間ごとに100円 (駐車開始から30分までは無料)

平成24年度使用料収入 26,566台 (うち有料駐車17,637台) 3,728,600円

(9) 路面・水路・側溝・宅地内降灰等の清掃作業状況 (平成24年度実績)

区分	作業量	作業区分等			浚せつ土量	搬出土量
		市単独事業	補助事業	市直営工事等		
路機	km	km	km	km	-	m ³
面人	m ²	m ²	m ²	m ²	-	m ³
側溝	km	km	km	km	m ²	-
公共下水道	km	km	-	-	m ²	-
宅地内降灰	か所	か所	-	-	-	m ³
	6,401	6,401				13,760

(10) 自転車等駐車場対策推進事業

平成8年3月に、自転車等の駐車対策に関する条例を制定し、同年10月から歩道や車道、駅前広場等の公共の場所に放置してある自転車や原動機付自転車の撤去を行っている。

鹿児島中央駅周辺においては、平成8年に自転車等駐車場を整備するとともに、駅周辺を自転車等放置禁止区域に指定している。

天文館を中心とする中央地区においては、平成14年から年次的に7か所の自転車等駐車場の設置を行い、併せてその周辺を放置禁止区域に指定している。

撤去した自転車等は、撤去し保管した旨を公示するとともに、所有者を調査し、返還に努めている。なお、返還する際には撤去保管料を徴収している。

公示の日から6か月が経過し、所有権が本市に帰属した自転車については、公用車として活用するほか、市民を対象とした「リサイクル自転車フェア」に出品し、自転車等の放置の防止や、物を大切にす意識の啓発並びに資源としての有効活用を図っている。

① 市営自転車等駐車場

ア 有料市営自転車等駐車場

名 称	位 置	利 用 方 法	利 用 時 間
市営鹿児島中央駅東口自転車等駐車場	中央町39番1	一時利用・定期利用	午前6時～午後12時
市営鹿児島中央駅西口自転車等駐車場	武一丁目7番3		
市営黒田踏切自転車等駐車場	西田一丁目1番33	定期利用	全日
市営東千石自転車等駐車場	東千石町3番44	一時利用・定期利用	
市営山之口自転車等駐車場	山之口町11番2		
市営二本松自転車等駐車場	山之口町3番29		
市営西千石自転車等駐車場	西千石町16番11		
市営中町自転車等駐車場	中町4番10		
市営おつきや自転車等駐車場	東千石町17番17	一時利用	
市営松山通自転車等駐車場	呉服町2番6		

イ 無料市営自転車等駐車場

名 称	位 置
市営南鹿児島駅自転車等駐車場	南郡元町33番20
市営谷山電停自転車等駐車場	東谷山二丁目766番2
市営谷山駅自転車等駐車場	谷山中央一丁目4087番6
市営慈眼寺駅自転車等駐車場	慈眼寺町1283番3
市営坂之上駅自転車等駐車場	坂之上四丁目4719番2
市営喜入駅自転車等駐車場	喜入町7070番40
市営生見駅自転車等駐車場	喜入生見町2739番12
市営薩摩松元駅自転車等駐車場	上谷口町1049番1
市営上伊集院駅自転車等駐車場	上谷口町1655番12
市営宇宿駅自転車等駐車場	宇宿三丁目12番8
市営広木駅自転車等駐車場	田上町4792番2

② 駐車料金等

ア 駐車料金

利 用 の 種 類	利 用 時 間	駐 車 料 金		
		自 転 車	原動機付自転車 大型自動二輪車 普通自動二輪車	
一 時 利 用	24時間(1回)	100円	150円	
定期利用	学 生	1月	1,200円	1,800円
		3月	3,240円	4,860円
	一 般	1月	1,500円	2,250円
		3月	4,050円	6,070円

③ 撤去した自転車等の返還について

ア 放置禁止区域内で撤去されてから約1か月以内の自転車等

- (a) 返還場所 鹿児島市自転車等一時保管所
鹿児島市南林寺町30番3 電話226-0632
- (b) 返還日時 年末年始(12月29日～1月3日)を除く毎日
午後1時～午後7時

イ ア以外の自転車等

- (a) 返還場所 鹿児島市自転車等保管所

鹿児島市田上八丁目28番5号 電話 282-7488

(b) 返還日時 年末年始(12月29日～1月3日)を除く毎日
午後1時～午後6時

ウ 撤去保管料 ア, イいずれも 自転車 1,500円 原動機付自転車 2,000円

④ 平成24年度自転車等の撤去・返還等及び自転車等駐車場の附置義務届出状況

(単位:台)

撤 去						本 人 返 還					
放置禁止区域内		自転車等駐車場内		放置禁止区域外		自転車	原動機付自転車	左のうち盗難届分			
自転車	原動機付自転車	自転車	原動機付自転車	自転車	原動機付自転車			自転車	原動機付自転車		
2,655	34	529	17	1,903	50	1,622	61	140	4		
リ サ イ ク ル						保 管				附 置 義 務	
市民への売却	バイク販売商への売却	公用車等として活用	大学へ譲与(留学生)	鉄くずとして処分		6か月保管中の台数		帰属後の保管台数			
自転車	原動機付自転車	自転車	自転車	自転車	原動機付自転車	自転車	原動機付自転車	自転車	原動機付自転車	届 出	完 了
364	42	95	30	3,028	13	1,496	13	0	0	6	6

20 高速道路

道路名	区画	延長	備考
(1) 九州縦貫自動車道鹿児島線	北九州市～鹿児島市 〔県内〕 約67km	約345km	・平成7年7月27日全線開通 ・平成16年12月11日全線4車線化（一部6車線）
(2) 南九州西回り自動車道 〔一般国道の自動車専用道路として整備〕	八代市～鹿児島市 〔県内〕 (1) 鹿児島道路(鹿児島IC～市来IC) ① 鹿児島IC～鹿児島西IC (0.9km) ② 鹿児島西IC～伊集院IC (10.2km) ③ 伊集院IC～市来IC (11.1km) (2) 川内道路(市来IC～薩摩川内都IC) ① 市来IC～串木野IC (7.3km) ② 串木野IC～薩摩川内都IC (6.5km) (3) 川内隈之城道路(薩摩川内都IC～薩摩川内水引IC) ① 薩摩川内高江IC～薩摩川内水引IC (3.5km) (4) 薩摩川内市～阿久根市 (21.0km) (5) 出水阿久根道路(阿久根市～出水市) (14.9km) (6) 芦北出水道路(出水市～熊本県芦北IC)※うち(熊本県水俣IC～熊本県芦北IC)(13.3km)は平成9年2月整備計画決定 (29.6km)	約140km	・平成2年11月整備計画決定 ・昭和63年10月19日開通 ・平成10年3月26日開通 ・平成14年4月6日開通 ・平成3年12月整備計画決定 ・平成17年3月13日開通 ・平成19年3月3日開通 ・平成5年7月基本計画決定 ・平成25年3月10日開通 ・平成9年2月基本計画決定 ・平成5年7月基本計画決定 ・平成3年12月基本計画決定
(3) 東九州自動車道	北九州市～大分市～宮崎市～鹿児島市 〔県内〕 (1) 鹿児島IC～加治木JCT (28.6km) (2) 加治木JCT～隼人東IC(隼人道路) (7.3km) (3) 隼人東IC～国分IC (4.8km) (4) 国分IC～末吉財部IC (22.5km) (5) 末吉財部IC～曾於弥五郎IC (11.1km) (6) 末吉財部IC～志布志IC (48.0km) (7) 志布志IC～串間市 (19.0km)	約436km	・九州縦貫自動車道と重複 ・平成4年3月25日開通 ・平成12年3月4日開通 ・平成14年3月2日開通 ・平成22年3月14日開通 ・平成16年1月整備計画変更決定 ・平成3年12月基本計画決定

21 地籍調査

(1) 概要及び効果

地籍調査は、国土調査法に基づき、毎筆の土地について、その所有者、地番及び地目の調査並びに境界及び地積に関する測量を行い、その結果を地図及び簿冊に作成するものである。

その効果としては、土地境界を巡るトラブルの未然防止、登記手続きの簡素化・費用縮減、土地の有効利用の促進、公共事業の効率化・コスト縮減、公共物管理の適正化、災害復旧の迅速化、課税の適正化・公平化等が挙げられる。

(2) 本市の進捗状況（平成25.4.1現在）

	調査対象面積	調査済面積 (他事業整備含む)	進捗率
鹿児島市	512.26km ²	243.33km ²	47.5%

※ 国有林野、湖沼等は調査対象面積に含まれない。
 ※ 他事業整備とは、国土調査法第19条第5項による指定（予定を含む。）及び法務局の登記所備付地図作成等によるものである。

〈メ 毛〉